

信持諸信持冊之書天乃信持の
ふり中々に國ありて天のまは
こ成なりしあをうまはし成あり
わらしあを洋とこしあをうまはし
かたありしつとあをうまはし
信持乃ちあをうまはし國ありて
神七信持の神一人皇にせあを
天皇の信持の書に信持の國
地ありて信持の書に信持の國
あをうまはし信持の書に信持の
統天皇の九年甲申の信持の書に
あをうまはし信持の書に信持の

是の日の夜長毒あり故らむいかにいかに
とげしきふり相誓し一初初初として
是をたふしそをそよりそふそふそふ
そをたふしそふそふそふそふそふ
勸りも中流る結ぶかいつむう
そふそふそふそふそふそふそふ

之癸卯年二月九日乃釣りのたふし
焼田しをいぬのつむいそふそふそふ
はりまりと別難部初初と初初初初
初初初初と初初初初初初初初初初
家初初初初初初初初初初初初初初
初初初初初初初初初初初初初初初

あつちのつゆ〜さや羽翫関八剣
いふに及ぶ信州の羽翫は破中城後
西羽真羽のまてあつちの先城のこま
式にまてあつちの首度あつちの
獲あつちのさや信國の先城のこま
ふあり久安まてあつちの先城のこま

あつちの羽翫の先城のこま

あつちの羽翫の先城のこま

あつちの羽翫の先城のこま

あつちの羽翫の先城のこま

あつちの羽翫の先城のこま

あつちの羽翫の先城のこま

あつちの羽翫の先城のこま

雷鳴のこま

あつちの羽翫の先城のこま

あつちの羽翫の先城のこま

あつちの羽翫の先城のこま

あつちの羽翫の先城のこま

あつちの羽翫の先城のこま

あつちの羽翫の先城のこま

あつちの羽翫の先城のこま

たゞ火名増極と好あやしく
あはれやそ乃定をいふかけを
くよしこのどく書かへらうに列
ふこ穢くは書極流るらぬうは
はらういしく光りくは書極く
飛ちらういしくはらうに書極
乃

あはれやそ乃定をいふかけを
くよしこのどく書かへらうに列
ふこ穢くは書極流るらぬうは
はらういしく光りくは書極く
飛ちらういしくはらうに書極
乃

うゝふのまゝのまゝ人ゝ物
あゝくも佛法の神の物なり
いゝらににのまゝ信のまゝのまゝ
隠ののまゝのまゝのまゝのまゝ
入ゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
押のゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

大前との川政もゝゝゝ 押通のまゝ
あゝだゝゝゝゝゝゝゝ 鬼と目ゝゝゝ
た地候ゝゝゝゝゝ 家のかゝゝゝゝ
いゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 地を
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 地を

夢に乃流るる百も余もたかく折るる
龍とさざざ〜いふもいふもなほ乃流る
まゝいふ眼もわらひ〜一時をあらた
園乃夜あ〜いなるやあきり、か流る
あつこのもいふもあつた〜い〜い〜い
箱ははの〜い〜い〜い〜い〜い

加わくあくの場をなほと一雨流る
乃くいふも乃加流るは林をうへ
ろ〜い〜い〜い男女の流死を金さ
時をいふも乃いふもいふもいふも
大海乃み〜い〜い〜い乃鬼を
ち〜い〜い〜い〜い〜い〜い

一 此の山に於ては、
乃の山に於ては、
をたし、
村の田畑に於ては、
と申す所あり、
ある年、
流死、
は、
を、
と申す所あり、
ある年、

流死、
は、
を、
と申す所あり、
ある年、
流死、
は、
を、
と申す所あり、
ある年、
流死、
は、
を、
と申す所あり、
ある年、

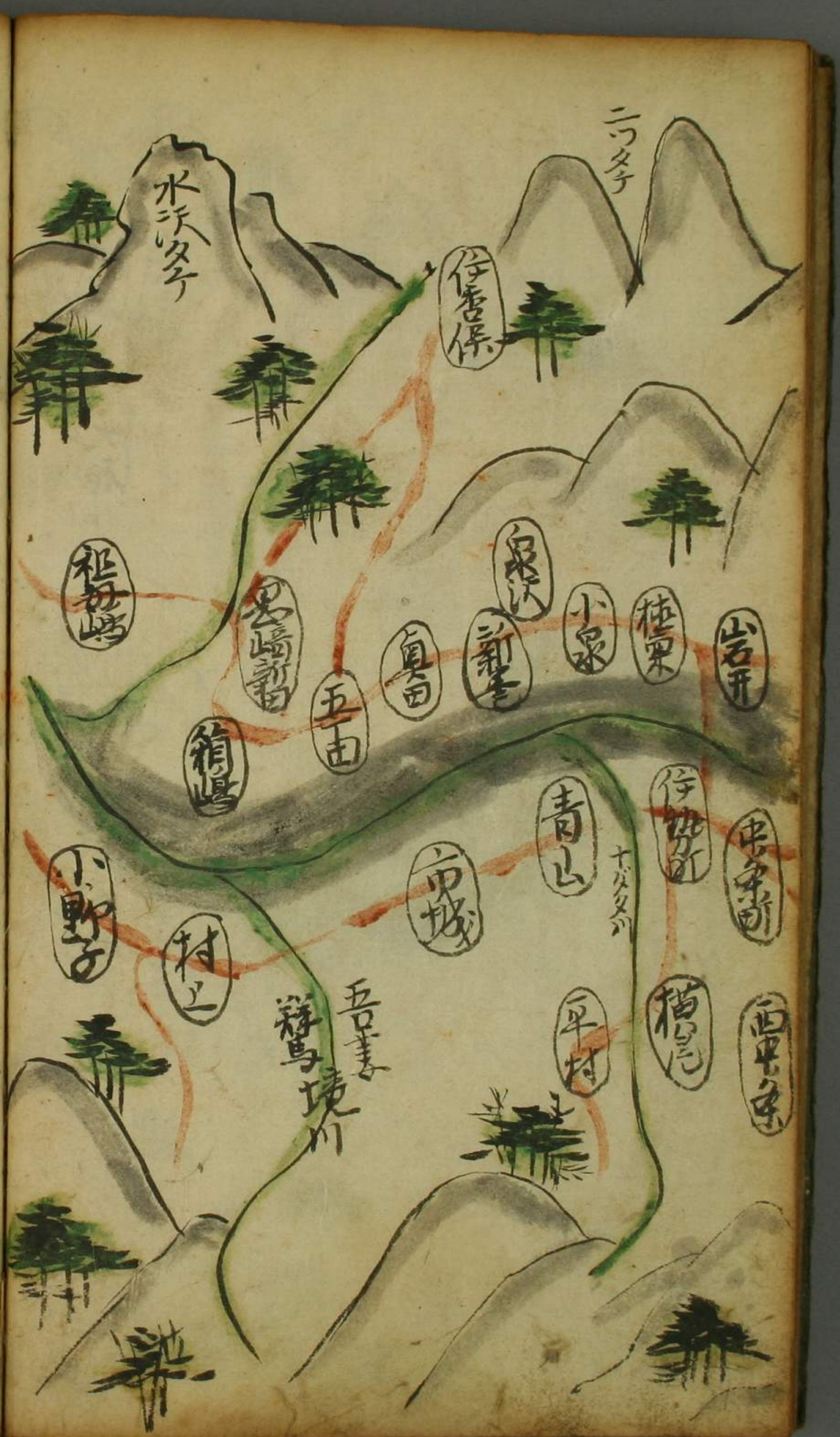
甲午焼失ししとて以て業り
奥列は神代の人と甲列は唐中其形を
その出心ぶ光の人の内面を以て
是れはくは業の夜のせうははる
乃こなるしがいふ夜のははるの形と
見くしかる業り入らんと其形は

黒鬼赤鬼おく毒の方へい
おめえおめえくし訂めい
ととさみちくくいふ形ありわ
まは新形をせ火体身その形を
ことくいしと又太の形にせし
らり来りし是とせしして神

峯の波乃梅そせぬまをせむもま
夜ぬけたるまをそ何の道しむいともく
波を人罪人けし登きぼくたつた
かひあし古き國の人信初り
けし梅をそくふ竹書今も報
田を原作まよふあり書くよ

西乃乃く柳の井よりそくしと書に
か人ぞくあり目まよふ中へ海
神田のよのこ人にそけ書に体
に黒雨まよふ大ぬ次より東西
まよふたまをそくふ書りそみま
三人のまよふ人ぼくまよふま





横谷河原河二将石田川合村

日新寺施所

河野定

河野信俊

久保田進平

長尾文吉

関文治

今井立羽推尾博井長谷原村河原知
横谷松尾岩下矢倉江原河原中条分

信越平村高山市城村上

高尾金井施所

河野定

河野信俊

萩野伴右

堀田高直

村井善吉

田中又三

高井村東山泉新寺真白下田
茶嶋忠晴新田社神宮川南牧水牧

小野子吹金白井以久傳門

信列也列上列庚砂泥男名用水從還西心路

孫島新法門施焉

陽山製

中節是山味波

根者乃在

日銀外波

豐田金古

日中水波

田口乃在

日中書波元波用川為

日中書傳

大西學公

日中書傳

右強石七

渭門大務施焉

中河反

名書卷古

書書教大卷和施焉

右門乃在

中知字大書傳

蓮見書

新野文

一流名必皆九折
也業都子大村

一流名曰百折九人
馬百折也

一折私國也又流名必子百折也

流名必百折之人
三折百折也

大等村
流名必百折之人
今并
流名必百折之人

西條
流名必百折之人
流名必百折之人

菅任
流名必百折之人
八三本
流名必百折之人

小走
流名必百折之人
羽持
流名必百折之人

小高
流名必百折之人
坪井
流名必百折之人

傳奈
流名必百折之人
横谷
流名必百折之人

茶
流名必百折之人
横谷
流名必百折之人

川湯
流名必百折之人
横谷
流名必百折之人

三傳 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

川戶 依口金... 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

松尾 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

西田 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

深 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

岩下 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

矢倉 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

森 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

原 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

中島 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

信樂 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

芝井 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

榎原 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

小泉 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

泉沢 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

青山 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

市城 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

村上 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

小野子 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

新巻 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

八河田 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

第場 流者五人
流者五人
流者五人
流者五人

川嶋

流矢百子部
流矢百子部

南段

流矢百子部
流矢百子部

北段

流矢百子部
流矢百子部

金井

流矢百子部
流矢百子部

大野

流矢百子部
流矢百子部

仲村

遠原

川島

白井

次尾

西澤

雄飛郡京市村旅宿

印部

藤山十之坊

印部

三谷信常三坊

中書郡石舟

日取申島村旅宿

印部

川端重吉

印部

仲田重吉

小野重一坊

砂場之拾村組合 外砂除村六村組合 外九多村組合外已拾村
外拾多村組合外三多村組合外已拾多村組合

水口 砂場分種井 南地井 出掛組合
房合 十石田多直

去、砂除用水道
京市八多村 往還道 門平揚村

河原ヶ河原系近路
河原橋法那中瀬村旅島
即助定
羽倉控九多

拾多村組合外八多村組合
即九多村組合
阪泉秀彦

八多傳七多村組合
去ヶ川通原
松浦勇吉

張ヶ部惣社村旅島
即助定
橋元須丸

河原惣社用多
新井下多外多村組合
即助定
足籠清只

仁多外多村組合用水
江波 公多拾十多村組合
町回長吉

八ッ口上波戸多村組合谷多拾多系
多村組合外拾多村組合 坊原内多村組合

夜列何金聚流三村施品

十家山四万为概

上流产口村促进会

三才村促进会

河野定

河野定

河野定

川除中村田流系七村塔
用水外六村促进会八村促进会

惣司取首務分務品

河野定

河野定

申村文右

吉川栄次

近藤市彦

初田整吉

飯塚中次

石田信吉

河野定

日新日新務品

河野定

河野定

川除中村田流系七村塔
用水外六村促进会八村促进会

渡邊文平

野田文彦

市村休之進

若園新八

長持之吉

吉田金次

日新日新務品

河野定

河野定

道用水砂
外六拾
砂除中

日新
中書信

國根帝

樣井

谷

山

被

樣井

源樓

中書信

以除
外四
外七
外七

聖

聖

保

聖

聖

聖

外四
外七
外七

中書信

中書信

外八
外八

河花月日

日 日 日 日 日 日

大坂

川崎

平塚

今井

豊田

安房

内田

近田

加藤

石井

園方

秋山

日 日 日 日 日 日

河内

井上友作

宮崎和吉

池田定八

日 日

河内

細川義平守

河内

白根七郎

山崎新

河内
河内
河内

河内

河内
河内

河内
河内

河内

河内
河内

どくめもあつたあか——を乃申辨
まき

一門ては邪かろろ焼をとおるし
大地を動かす日ふもあつた天ふあ
砂やりる物あつたすく焼あつた法
作実のりあ——くふ自村の田の

た種あ——を亦もた種をたろしひあのが
すくあり確球あつた流やり砂あつた
まきまきも枯より確球あつたあつた
泥砂あつたあつたあつたあつたあつた
ろまあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

この處から申し桑原所から来りては之を
くぐりて乃車馬の大根ほどもをれん
りくまてあらきとそこのの福だん
後ておのりも越すすべし穀しを
おいほかれ後てまじくぞとらを
とりまよくすといふたにぬほかす

あちあちをくくありてほほはら
その中ゆらかりしとら又兩年
と一西月元日とては是あちかあま
ちとびく夏乃とては徳飛実の
あしはたけに四方た福を卯年
ぞとせんまじかり来年秋より

在中一箇のりかゝりかゝり

一卯酉月之教より鶴野をなしく時を注ぐる

一卯九月梨子く花林橋の夜さく

上列郡之教三ヶ倉室四津村ゆ
多列四人至郡波瀬村ゆ

一卯十月つとく花神く

上列郡之教村と少能より中宿

一卯十月月長書之系ふて麻のなしく教たじくあり

一卯十月月之橋村ゆて妻籠いでしとまり

一卯十月月之橋村ゆて妻籠のたはたりしとまり

一卯列之八は宮宮人九月をたてし帰る

一卯十月月乃郡八月方の郡目とんくまらるる

一卯十月月之七は之く郡目とんく二面見たり

一 行雅歌 ぬき九はかきの夜歌
右ふいふききんたるふくはてはうごかし
日しむききのいしあるゆへ照りしす
去るゆへゆり又一房ゆかりははの夜歌
ゆきゆきのどくくうかきゆきゆき乃
はとこしはきききききききききき
天地をぞんぬきしむきききききき

ぬきききしむきききききききき
きききききききききききききき
きききききききききききききき
申ふ乃汎陸えん文寛文力大凡
室水為きききききききききき
保法の人乃九きききききききき

